

水泳・日本学生選手権

女子800メートル自由形 岩永が優勝



▲ 力泳する岩永(中央=写真は関東学生選手権のもの)

同400メートルでも3位

日本学生選手権水泳競技大会が9月2日から4日まで、横浜国際プールで行われ、岩永美里(経営3・八王子高)が女子800メートル自由形で自己記録で初優勝した岩永は、3度目の日本学生選手権で初優勝した岩永は

「800メートルは朝から調子が良かった。最初から飛ばして、前半から差をつけ、逃げ切った」と満足できなかった。優勝を目指したい」と、最後の日本学生選手権に向けて、力強く抱負を語った。

「スだった」と振り返った。一方、400メートルについては「順位的には初めて入賞できたが、ベストタイムではなかった。満足できなかった。悔しさをにじませた」と悔しさをにじませた。「来年は2種目ともベストタイムで泳ぎ、優勝を目指す」と語った。

テニス・全日本学生選手権 重藤・難波組 2年連続3位

全日本学生テニス選手権(以下、インカレ)が8月29日から9月4日まで、有明テニスの森で行われ、女子ダブルスの重藤真知子(文4・筑陽学園高)・難波沙樹子(文末、5-7で落とすと力

8月29日から9月4日まで、有明テニスの森で行われ、女子ダブルスの重藤真知子(文4・筑陽学園高)・難波沙樹子(文末、5-7で落とすと力

大学リーグ戦につながるものがあるだろう」と語った。

また、リーグ戦で最大のライバルとなる早大について「強いと言っても同じ大学生。チャンスは大いにある」と期待を示した。

記録コーナー

◇水泳部(競泳)▽関東学生選手権水泳競技大会(男子2部)【100メートル背泳ぎ】角田隼人(経営1・前橋育英高)【100メートルバタフライ】岩佐篤史(商3・高崎商高)【100メートル同】鳥羽美那(法4・高崎商高)【100メートル個人メドレー】正田達成(経営1・前橋育英高)【100メートル同】正治和希(経済3・富山商高)【100メートルメドレーリレー】角田・正田・岩佐・戸野本純希(経済2・湘南工科大附高)組【1位

岩永 2種目制す 高久が優勝

関東学生選手権 個人メドレー

女子200メートル個人メドレー

関東学生選手権水泳競技大会(8月6-8日、横浜国際プール)では、岩永が女子400メートル自由形、同800メートルの両種目で優勝。高久彩(ネット情報2・淑徳巣鴨高)が女子200メートル個人メドレーで優勝、同400メートルで3位となった。

また、宮坂忍(文2・八王子高)が女子200メートル自由形で2位、岩永・轟結花(文4・大田原女子高)・高野有紀(経済1・南平高)・宮坂組が女子800メートルフリーリレーで2位に入賞した。高久は「大会全体のレベルが上がっていたの

で、昨年とは違う雰囲気を感じることができた。自分のペースを崩さず個人としてもチームとして成長し、ベストな状態で次の試合に臨んでいきたい」と述べた。(横谷 美遥・ネット情報2)写真も

レスリング・全日本学生選手権

馬場が準優勝

フリー96kg級 半田は3位に

全日本学生レスリング選手権が8月29日から9月1日まで、駒沢体育館で行われた。全国から実力者が集まるなか、専大ではフリースタイル96kg級で馬場貴大(経営2・島原高)が準優勝、同55kg級で半田守(経営3・網野高)が3位に入賞した。

相手の出方を待ち構えて、わぬ反則を取られ、このピリオドを失う。その後、何とか流れをつかもしたが追いつくことはかなわず、0-2で敗

れた。試合を振り返り「最初のピリオドを終えた後、相手のクリンチを受け、集中力が切れてしまった。10月の国民体育大会では挽回したい」と話した。

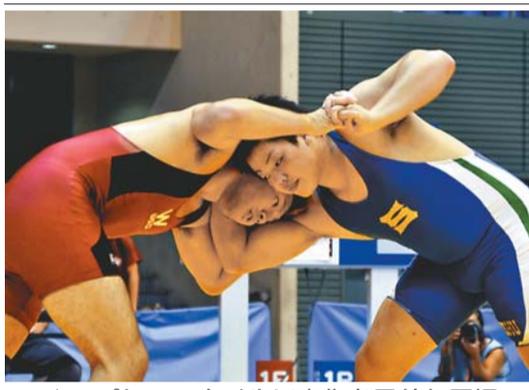
半田はグラウンドの攻防からの素早いローリングが今大会もさえ渡った。しかし、タックルが決まらない場面も多く、準決勝では相手を攻めきれずに敗退。「練習していた技は発揮することが

できたものの、相手との距離感がつかめなかった。12月の全日本選手権出場を目指し、そこでリベンジしたい」と次の目標を語った。(土屋 杏有美・文3)写真も

専大スポ

No.306

大会結果 予定は変更ありホームページ(専大ホームページ「スポーツ」からログイン)で確認ください
専大スポ Web (http://sensuipo.web.fc.com) 専大スポを配信しています



▲ プレースタイルに変化を見せた馬場



▲ 半田は多彩な技を發揮

ゴルフ・関東学生選手権 梶原 次につながる2位 専大勢は6人が「日本学生」へ



▲ 集中力を發揮した梶原

関東学生ゴルフ選手権が8月9日から12日まで、千葉県の大鷹の台カンツリー倶楽部で行われ、梶原英明(経済3・大分高)が準優勝し、10月に行われる朝日杯争奪日本学生選手権の出場権を獲得した。

炎天下でのプレーとなった4日間。1日5時間を超えるラウンドは選手たちの集中力を試すかのようだった。そんな中、梶原は4日間すべてアンダーパーでまわった。

難しいグリーン、天候でも安定したプレーで実力を発揮した。しかし、「満足できない。目標は優勝することだった」。今大会では、6人が日本学生選手権競技の出場権を獲得。チーム全体が成績を残し、関東大学秋季対抗戦に期待が高まっている。梶原は「秋は優勝したい。自信はあります」と力強い言葉を残した。(笠井 規史・商3)写真も



▶ リーグ戦での活躍も期待される松上

日刊アマ学生男子関東大会 松上が初優勝 “全日本”へ出場

「パターが思い通りに決まってくれて、初めて60台を出すことができた。この大会から調子が上がってきて、チームでもレギュラーになることができた。秋季対抗戦では優勝に貢献したい」と話した。(溝井 智大・文2)

8月11日、茨城県常陸大宮市のサニーフイールドゴルフ倶楽部で行われた日刊アマ学生男子関東大会決勝で、松上和弘(経済1・高水高)が初優勝した。この結果、11月に行われる同全日本男子大会への出場を決めた。最終安定したゴルフを見せた松上は、トータル69というスコアでまともな勝負強さを見せた形となった。

また、リーグ戦で最大のライバルとなる早大について「強いと言っても同じ大学生。チャンスは大いにある」と期待を示した。